

第Ⅳ部

法政大学教職課程・ 教職課程センターの報告

2017年度教職課程の報告

法政大学教職課程センターの一層の躍進に向けて

～さらなるネットワーク構築を目指して～

教職課程センター(市ヶ谷)相談指導員
笠谷 一夫

はじめに

本年度の教職課程センター報告にあたり、まずは今まで「教職への道」を日々通い、さまざまな不安や葛藤の中で真摯に自分と向き合っており、最後に「教職への夢」を達成した卒業生の皆さんへ心からお祝いの言葉を贈る。

また、残念ながら今年の選考には漏れたものの、次へのステップを夢見て日々精進している皆さんに、労いと激励の言葉を送りたい。

本年度の活動を振り返ってみると、まずは利用者の意識の高さ、その熱意に圧倒されたことである。売り手市場と言われ、圧倒的な就活ブームの中で「教職に就きたい」「先生になりたい」との一念で採用試験に向かって準備してきた彼らたち。それでも教職のハードルは高く、相変わらず道は険しく続いている状況だ。この社会状況の中で、教職を目指す彼らは誰よりも孤高でその理想は気高いものである。レベル的にも少数精鋭の中での激戦といった感がある。実際、今年の採用試験の開示結果などを聞いてみると、あと一步という所で涙を呑んだ人も多くいたように思われる。その状況の中で、公立校あるいは私立校の専任教員・常勤講師・非常勤講師としての進路が決定したのである。あらためてその努力に心からの拍手を送りたい。センターを運営するこちらの側もあらためて、責任の重さを痛感する。

この一年間の教職課程センターの活動を振り返り、教職を目指す学生の皆さんへのサポート機能がどのくらい発揮出来たのか、今後の課題を踏まえつつ、次へのステップに繋がることを願って私の所見を述べさせていただく。

1 現状と今後の課題 ～全体的な取組みと対策～

本年度、6年目を迎えた本学の教職課程センター(市ヶ谷)を中心とした現況と今後の課題について、この一年近くを概観してみたい。

年々、教職課程センターの学内外における認知度は徐々に高まっており、学部生はもとより院生や通信教育学部生、さらに卒業生などからの相談と、利用者のニーズも多様化している。一番のユーザーは来年採用試験を受験する3年生ではあるが、その3年生たちの中にも民間会社にしようか、就活と教員採用試験との板挟みで決めかねている学生が多く見られた。二次試験対策の基盤を強化するため、昨年12月より「自己分析」講座等のキャリアガイダンス的な講座を開講したり、全員初回のインテーク面接を実施するなど、「教職キャリア形成」の視点から様々な取組みを行ってきた。将来的には、本学の教師教育や学生の進路の根幹を担う「キャリアデザイン学部」や「キャリアセンター」の持つ機能、ノウハウといったものを共有できるような協働的なネットワークづくりを期待したい。

3キャンパスにおいても、それぞれの特性や状況に合った取組みの工夫が行われている。現在は相談指導員の定期的な会合を持ち、意思疎通を密にしながら今後に向けた連絡協働体制を強固にしている。

市ヶ谷相談室においては、今年度後半から大幅に教職関連の講座数とその種類を増やし、時間のかかる二次対策を前倒しするとともに、一人ひとり個別面接を丁寧に行っており、各学生の実態把握やニーズをつかみ、補充深化を目的とした相談指導体制を強化してきた。

しかしながら、根本的な課題として、せっかく初めの段階で教職ガイダンスや採用試験ガイダンスを実施しても、特に授業期間中は授業の空き時間に自らの主体性で講座や個別指導を予約するシステムのため、中々タイミングが合わなかったりするなど、実施上の難しさが伴う。こちら側も継続的で良質のサービスを提供する上で、基幹的な内容だけでもより多くの希望学生が集えるような小中高の「総合的な学習の時間」ではないが、何らかの全学的なシステムが望まれる所である。同時に、教職に関わる関係の教員(外部指導員を含め)が何らかの形で直接教職希

望の学生に指導、接する機会を増やすとともに、相談指導員や実務家教員の増員などを通じて、センターのコーディネーター機能を高めることが出来たらと願う所である。

2 ネットワークの拡大・拡充と支援の質的充実

昨年8月末、この数年間に本学を卒業した若手の教員による「若い教師の会」が初めて開かれ、有意義な懇談会となった。このような法政出身の現職教員の支援ネットワークの整備をどのように図るか、さらに現役学生への還元をどのように図っていくか、卒業生を招いての講演会やシンポジウム等、今後さらに検討を進めていく必要がある。

また、ここ数年市ヶ谷では公立中・高等学校等の授業見学や学習ボランティアの紹介を行ってきた。直近の教育現場、学校の生の現状を早い段階から知ることは、学生自身の視野の拡大やモチベーションの向上にも非常に有益である。昨年9月以降、近隣の公立中等教育学校をはじめ、サポート校や都内公立中学校、本学と高大連携協定を結んだ私学女子中高校など訪問した所は多岐にわたる。川崎市主催の学校見学会にも参加し、地域や自治体の違いを参加した学生は体感することが出来た。外部施設や団体との有益で有機的なネットワークの可能性を今後も追求していく必要がある。

内部の学生同士のネットワークづくりも重要な取組みである。すでに今年度の「教職を目指す自主学習サークル」はスタートしている。1月末現在、本格的な活動はこれからであるが、昨年同様積極的な取組みを期待したい。同一教科のグループや必要な目的に応じたグループづくりは「模擬授業」や「面接練習」等だけでなく、一人だけでは出来ない学習効果と新鮮な刺激が得られる効果は大きい。

さらに、教職課程センター内外を通じた情報収集と提供をどのように充実させていくかも重要な課題である。東京都をはじめ近隣自治体の採用試験に向けたガイダンス、説明会等は毎年実施しているが、私学指向の学生の増加や大学院、教職大学院等への進学ニーズもあり、今後さらに情報の収集を充実させ、提示の仕方等も学生の主体性のもとにどう工夫していくか、その支援のあり方についても引き続き検討していく。

数年後には、児童生徒数の減少に伴い、教員採用試験をめぐる状況の変化も予想されている。教職課程センターが教職を目指す学生の皆さんの期待に応え、よりサポートセンターとしての機能を発揮するためにも、今後一人ひとりの個性と自主性を尊重しながら、様々な角度からきめの細かい支援をしていく必要がある。

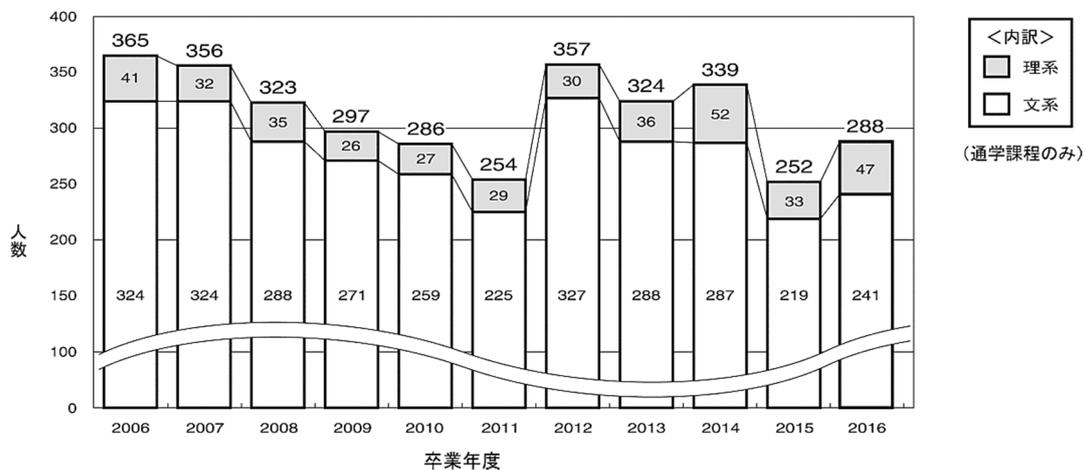
センターが、これからも「教職をめざす学生自身の集大成」の場として発展することを大いに期待したい。

1. 教職課程履修者および免許取得者の状況

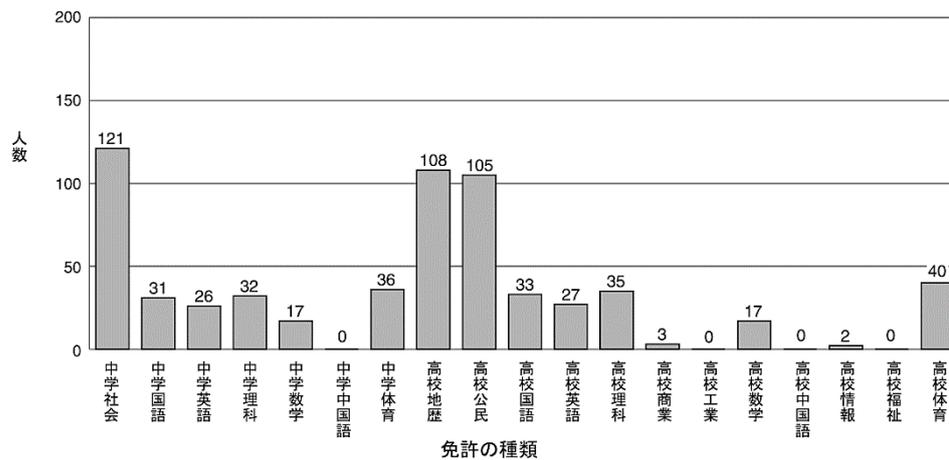
1) 免許取得者数の推移

免許取得者数は、2016年度卒業生では学部生が288名、科目等履修生が5名、大学院生が12名であった(2015年度は学部生252名、科目等履修生8名、大学院生7名)。この数字は全学部卒業生数の約4.5%に当たる(図表3参照)。教員免許取得者数のここ数年の変化は、下記のグラフのとおりである(図表1参照)。教員免許取得者区分の詳細は、<図表2>に示した。2016年度に法政大学が設置する教職課程の増加(図表8参照)があったこともあり、教員免許取得者数は2006年をピークに300人を超える状況が恒常的に続いていたが、その後は減少傾向で推移した。しかし、2009年度に新設されたスポーツ健康学部の免許取得を目指す学生数は100名近くに上り、2012年度免許取得者数は大きく増加した。2013、2014年度はその水準を保ってきたが、2015年度以降は300名を切っている。

<図表1> 教員免許取得者数の経年変化（大学院、科目等履修生、通信教育生含まず）



<図表2> 2016年度の教員免許の種類別内訳（専修免許は省略、通教は含まず）



＜図表 3＞法政大学における 2016 年度教員免許取得者数と割合

学部	中学一種					高校一種					中学専修					高校専修					件数 合計	免許 取得 者数	卒業生数	免許 取得 率				
	社会	国語	英語	理科	数学	中国語	情報	福祉	体育	計	公民	英語	理科	工業	商業	英語	公民	英語	理科	工業					商業	情報		
法	21	0	0	0	0	21	20	22	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	25	741	3.4%	
文	24	30	16	3	0	73	25	17	32	16	93	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	166	77	624	12.3%	
経済	23	0	0	0	0	23	23	19	0	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65	25	818	3.1%	
社会	21	0	0	0	0	21	17	21	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	23	716	3.2%	
経営	11	0	0	0	0	11	4	11	0	0	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	15	740	2.0%	
国際文化	0	0	8	0	0	8	0	0	9	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	10	256	3.9%	
人間環境	8	0	0	0	0	8	7	6	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	9	341	2.6%	
現代福祉	2	0	0	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	228	1.3%	
キャリアデザイン	9	0	0	0	0	9	9	4	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	13	280	4.6%	
GIS	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	55	3.6%	
スポーツ健康	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	39	161	24.2%	
理工(工)	0	0	7	17	0	24	0	0	0	9	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	25	476	5.3%	
情報科学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	158	0.0%	
デザイン工	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	277	0.0%	
生命科学	0	0	21	0	0	21	0	0	0	22	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	22	191	11.5%	
小計	119	30	26	31	17	35	258	105	102	32	361	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	619	288	6062	4.8%	
科目等	2	1	0	1	0	4	3	2	1	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	5	-	-	
大学院	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	2	4	2	0	0	0	6	3	3	2	0	0	0	20	12	541	2.2%	
総合計	121	31	26	32	17	36	263	108	105	33	370	4	2	0	0	6	3	3	3	2	0	0	0	11	650	305	6603	4.5%

※免許取得率に科目等履修生は含まず

2) 教育実習の状況

2017年度の教育実習実施者数及び実習先内訳は、以下のとおりである(図表4参照)。また教育実習実施者数の経年変化は、<図表5>に示した。2016年度の346名に対して、2017年度は323名と微減した。ここ数年の教育実習者数減少の背景としては、教員養成制度が激動期を迎えようとしていることや、民間企業に対する就職活動との兼ね合いなどの社会情勢が考えられる。また、教職課程費の徴収という制度変更の影響もあると考えられる。

教育実習においては、毎年度、実習実施において、一定数の問題が発生していることについて、学生諸君への注意を喚起しておきたい。2017年度において、教育実習で、直前の中止ないし辞退となった学生は16名、実習校による実習評価がC評価となった学生は7名、D評価となった学生は2名であった。

問題となった特徴は以下のようなものである。

(1) 実習の規律、特に時間規律や指定されたオリエンテーションなどへの対処がルーズであったり、時には指導教員や実習校の指示を忘れていたりするケースである。最初の実習校のガイダンスに無断欠席し、実習中止になるケースもある。時間の約束を守ることは、スムーズな学校運営にとって欠かせないものであり、その点の自覚が足りないものは、実習校にも多大な迷惑をかけることとなる。この点でのルーズさ、社会人としての規律に対処できないものは、実習校に教育実習を受け入れていただく資格がないものといわざるを得ない。

(2) 教科の指導力量が不足しているケースである。そのため指導案がきちんと書けない状況になり、ほとんど教壇実習をさせてもらえないままに終了したケースもある。教師を目指すうえでは、そもそも基礎的な学力不足というべきものである。この様なケースのなかには、体育系の部活などを中学や高校でやりたいという意欲だけは鮮明でも、最初から教科の力量をしっかり身につけることをおろそかにしているケースがある。自分の教科の力量についてのきちんとした自己評価ができない状態で教育実習を受けることは許されないと心得るべきである。板書の字があまりに汚い、漢字の間違が多いなども、しっかり事前に克服しておくことも重要である。また、実習に行く前に、模擬授業を何回か行い、大学教員や友人にコメントしてもらい、授業というもののおよそのイメージを事前に獲得しておくことが不可欠である。それは実習生にとって必須の義務である。

(3) 近年多くなっているのが、就職活動との調整がうまくできずに、実習を欠席するケースである。教育実習は、全日程参加が原則であり、例外がないものと心得るべきである。就職のための面接などと競合するときは、教育実習を優先して、就職活動の日程の方を変更することで対応しなければならない。就職活動のため教育実習の欠席を実習校の教員に相談しただけで、実習態度を疑われて実習が中止となるケースも生じている。教育実習を行うということはそれだけの決意を必要とすることであり、多忙を極めるなか教育実習を引き受けてくれる学校や先生方、教育実習を受けてくれる生徒に対する責任という点からも、その点をあいまいにしてはならない。この点に関しては2017年度から、一般の職業の選考開始が6月となり、まさに教育実習と重なる状況が生じているので、一層の計画的な対処と決意が求められる。

(4) もう一つのケースは、対人関係力において、誠実さや熱意を疑われるケースである。もちろんコミュニケーション力が不足していて失敗をすることは多く見られることである。しかしそれは、誠実に対処することで、自らも成長していく機会とすることができる。最も問題を引き起こすのは、当然の指導の課題に誠実に取り組まないようなケースである。定められた課題や業務をこなさないままにする、正当な指導や注意に誠実に対処しない、きちんとした意思表示をしないで指導を受け止めているかどうかよく分からないなどは、実習校にとって最も困ったものである。さらに、明らかに生徒へ間違った対応をして、実習が中止になるケースもある。生徒の個人情報や漏らさない、学外での生徒との個人的な接触は避ける、人権や人間の尊厳に関わる重大な間違いを犯さないなど、基本的なことであるが、重要である。言うまでもなく、教師という仕事は、自分の言葉、体、表情など身体を含む人格全体を使ってコミュニケーションをとり、他者に働きかけていく職業である。誠実に他者とコミュニケーションする心と体を豊かに作り出しておくことが、教師になるために重要であることを、忘れないでほしい。

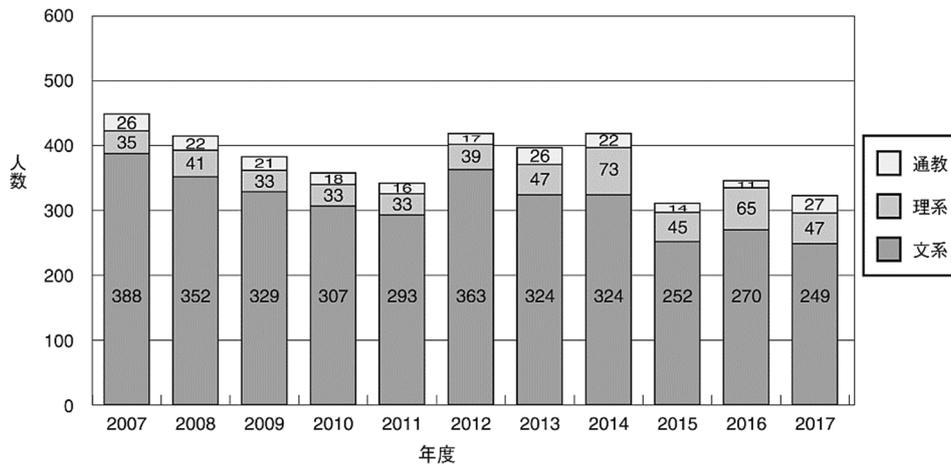
また教育実習を取り巻く環境が年々変化し、厳しくなっている点も留意しておく必要がある。学校現場の困難もあって、教育実習生の受け入れ枠は、むしろ縮小傾向にある。学生自身の出身校であっても、実習生の受け入れ限度(東京都内の公立校の場合、東京都教育委員会が各学校の実習生受入数を教師の教などで判断し、振り分ける)を超える場合、拒否されるケースも見られるようになってきた。そのため、実習を1年延期せざるを得ないという事態も起こりうることを念頭に置いて、できるだけ早い段階で、出身校などに打診し、確実な承諾をもらえるように準備する必要がある。更に、教育現場の困難に対応して、教育実習生にも高い能力と努力が求められてきている。そのため、教育実習の評価が厳しくなっている面もある。教育実習に挑戦しようとする学生は、これらの状況

をしっかりと踏まえ、全力でその準備をする必要がある。

<図表 4>2017 年度教育実習実施者数及びその内訳、2016 年度との比較

実習校	文系	理系	通教	計	2016 年度合計数
都内公立学校	27	6	4	37	47
法政大学付属校	23	3	0	26	48
委託校	199	38	23	260	251
計	249	47	27	323	346

<図表 5>教育実習実施者数の経年変化



3) 介護等体験の実施状況

1998 年 4 月入学生より中学校の教員免許取得のためには、7 日間の介護等体験が必要となっている。そのうち 2 日間は特別支援学校、残りの 5 日間は社会福祉施設での体験となる。介護等体験実施者数は、以下のとおりである (図表 6 参照)。

介護等体験でも、実習態度が問題とされるケースが生じている。遅刻、体験に求められる準備の忘れ、なかには体験中の指示に対する対応が問題となり、最悪の場合は体験中止となった学生もいる。体験規律を守ること、誠実かつ全力を傾けて体験に臨むことが求められている。

<図表 6>法政大学の介護等体験実施者数

年度	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
人数	374	293	292	266	539	411	499	385	331	411	384

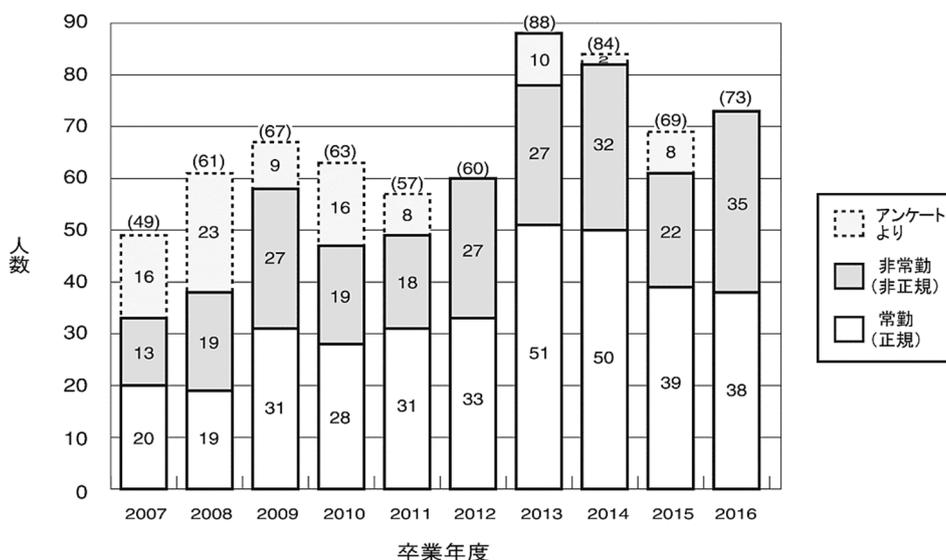
4) インフルエンザ及びはしか (麻疹) 等の対策について

はしか (麻疹) の感染による教育実習の中止や延期が、2007 年度に全国的にも大問題となった。法政大学としては 2008 年度から、教育実習生および介護等体験生全員について、はしかの抗体を保持しているかどうかを確認し、免疫保持者および予防接種をして抗体が獲得されたと判断する者以外は実習を受けさせないという厳格な措置を実施した。現在もその措置は継続されている。また、近年新しい感染性の病気の流行も見られるので、各自慎重に予防接種などの対策を講じて、実習に差し支えないように健康管理に注意する必要がある。

2. 教師への採用状況

教職への就職は、基本的には厳しい現状にある。しかし、正規と非正規の採用を合わせて、最新データである2016年度では73名が採用されている。なお、教職への就職者数及びその経年変化は、大学で把握できている人数としては、以下のとおりである（図表7参照）。

＜図表7＞法政大学卒業生の教職への就職者数の経年変化



なお、グラフの実線部分は、その卒業時の大学としての把握数であり、点線部分は、その後1年間のうちに新たに教職に就いた者の数——卒業後のアンケート調査によって把握——を加えたものである。アンケート調査は隔年に実施している。

いわゆる団塊世代の大量退職という動きが始まり、東京都の採用状況を見ると、小学校段階では、採用数が急増し、採用試験の倍率も低い水準にある。中学や高校でも一定の採用数の増加がある。このチャンスを生かすためにも、教員採用へ向けて一層意識的な対策が求められる。なお、本学卒業生のなかにも小学校教員として採用される学生がいる。一つは、小学校教員資格認定試験に合格した者、もう一つは、小学校教員免許状を取得できる他大学の通信教育課程などにおいて、単位を修得したものである。教職に就きたいという熱い思いを実現する一つの有力なルートとしてこれに挑戦する道もある。

また、東京都の各区などで、「学習指導講師」を教員免許を持つものから採用する計画があるとか、教職を目指す学生から学校現場での学習支援ボランティアを募集する動きが多くある。更には、新規採用のなかで、非常勤講師経験者からの採用の比率が高まっているという実態があり、教職に就く一つの機会としてこれらに挑戦してみることも勧めたい。なお、学習支援ボランティアなどの募集情報は、教職課程センターなどでも紹介しているので、利用してほしい。

3. 法政大学教職課程の状況

法政大学全体の教員免許取得課程の状況は、＜図表8＞（法政大学教員免許取得課程一覧表）のとおりである。2017年度は、法政大学の教員免許取得課程の増設（認可・設置）はなし。

<図表 8>法政大学教員免許取得課程一覧表

大学の課程（通学課程）〔2018年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
	政治学科	社会	地理歴史・公民
	国際政治学科	社会	地理歴史・公民
文学部	哲学科	社会	地理歴史・公民
	日本文学科	国語	国語
	英文学科	英語	英語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会・理科	地理歴史・公民・理科
	心理学科	社会	公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民・情報
	国際経済学科	社会	地理歴史・公民
	現代ビジネス学科	社会	地理歴史・公民
社会学部	社会政策科学科	社会	地理歴史・公民
	社会学科	社会	地理歴史・公民
	メディア社会学科	社会	地理歴史・公民・情報
経営学部	経営学科	社会	公民・商業
	経営戦略学科	社会	公民
	市場経営学科	社会	公民
国際文化学部	国際文化学科	英語・中国語	英語・中国語・情報
人間環境学部	人間環境学科	社会	地理歴史・公民
現代福祉学部	福祉コミュニティ学科	社会	
	臨床心理学科		公民
情報科学部	コンピュータ科学科		情報
	デジタルメディア学科		情報
キャリアデザイン学部	キャリアデザイン学科	社会	地理歴史・公民
デザイン工学部	システムデザイン学科		情報
理工学部	機械工学科	数学	数学
	電気電子工学科	数学	数学
	応用情報工学科	数学	数学・情報
	経営システム工学科	数学	数学
	創生科学科	数学・理科	数学・理科
生命科学部	生命機能学科	理科	理科
	応用植物科学科	理科	理科
	環境応用化学科	理科	理科
グローバル教養学部	グローバル教養学科	英語	英語
スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	保健体育	保健体育

大学の課程（通信教育課程）〔2018年度入学者用〕

学部	学科	中学校一種	高校一種
法学部	法律学科	社会	地理歴史・公民
文学部	日本文学科	国語	国語
	史学科	社会	地理歴史・公民
	地理学科	社会	地理歴史・公民
経済学部	経済学科	社会	地理歴史・公民
	商業学科		商業

大学院の課程〔2018年度入学者用〕

研究科	専攻	中学校専修	高校専修
人文科学研究科	哲学専攻	社会	公民
	日本文学専攻	国語	国語
	英文学専攻	英語	英語
	史学専攻	社会	地理歴史
	地理学専攻	社会	地理歴史
	心理学専攻	社会	公民
国際文化研究科	国際文化専攻	英語	英語
経済学研究科	経済学専攻	社会	公民
法学研究科	法律学専攻	社会	公民
政治学研究科	政治学専攻	社会	公民
	国際政治学専攻	社会	公民
社会学研究科	社会学専攻	社会	公民
経営学研究科	経営学専攻	社会	公民・商業
情報科学研究科	情報科学専攻		情報
デザイン工学研究科	システムデザイン専攻		情報
公共政策研究科	公共政策学専攻	社会	公民
	サステイナビリティ学専攻 ※2016年度に認可・設置	社会	公民
理工学研究科	応用情報工学専攻		情報
	システム工学専攻	数学	数学
	応用化学専攻	理科	理科
	生命機能学専攻	理科	理科
スポーツ健康学研究科	スポーツ健康学専攻 ※2016年度に認可・設置	保健体育	保健体育

4. 教員免許状更新講習

1) 2017 年度講習の実施

今年度（2017 年度）は、以下の日程とプログラムで実施した。実施に当たっては、企画・準備・実施を担うプラン委員会を、3 回開催した。

①必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数	受講者数
第 1 日 7/31(月)	「マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 (午前) 最近の教育政策と学校経営の課題	高野 良一	60 名	60 名
	(午後) 社会性や道徳性の発達と支援	渡辺 弥生		

②選択必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数	受講者数
第 2 日 8/1 (火)	「キャリア教育の過去と未来」 (午前) キャリア教育はどこからきたのか？ －進路指導からの展開と転回－	児美川 孝一郎	60 名	57 名
	(午後) キャリア教育はどこへゆくのか？ －学外連携を中心に－	筒井 美紀		

③選択領域

日 程	内 容	担当教員	募集数	受講者数
第 3 日 8/2 (水)	「生徒指導上の課題から捉える教育の本質」 (午前) 主体的・対話的な学びに求められる視点	寺崎 里水	60 名	52 名
	(午後) 特別なニーズ教育に求められる視点	遠藤 野ゆり		
第 4 日 8/3 (木)	「教育の情報リテラシー」 (午前) 教育および社会データの情報検索と活用	田澤 実	60 名	53 名 (含欠席 1 名)
	(午後) メディアと情報・学校図書館の活用	坂本 旬		
第 5 日 8/4 (金)	社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」 (午前) 生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤 公明	30 名	36 名
	(午後) シティズンシップ教育としての社会科教育の課題と展望	和田 悠		
	国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」 (午前) 文学教育と言語教育、教材としての「小説」	中丸 宣明	30 名	33 名
	(午後) 古典文学の魅力を伝える	小秋元 段		
	英語科「Creating More Motivating Classroom Environment」 (午前) Activities for making grammar learning more motivating :Recycling the coursebook	ウィリアム スナイダー	30 名	26 名
	(午後) Exploring L2 Motivation on the Challenge of Teaching in the EFL Classroom	小堀 真知子		
理科「怪しげな科学情報と科学思考」 (午前・午後) 怪しげな科学情報と科学思考	左巻 健男 長島 雅裕	30 名	37 名	
数学科「これからの数学と数学教育」 (午前) 文明社会のなかの数学	鈴木 麻美	30 名	25 名 (含欠席 1 名)	
(午後) 自然数の分割	杉山 健一			

2) 講習受講者の評価

次に、講習の実績評価として、文部科学省に報告した受講者アンケート結果（受講者評価結果）を掲載しておく。なお、アンケートに記載された具体的な感想やコメントも含めて、この受講者評価については、2017年10月の第1回ブランチ委員会で報告し、委員間で情報を共有した。

2017年度免許状更新講習受講者評価結果（法政大学）

講習の名称	受講人数	回答者数	評価項目Ⅰ 講習の内容・方法についての総合的な評価				評価項目Ⅱ 講習後の、最新の知識・技能の修得の成果についての総合的な評価				評価項目Ⅲ 講習の運営面についての評価				全体平均			
			4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
			よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分	よい	だいたいよい	あまり十分でない	不十分
【必修】マクロ・ミクロから捉えた学校と子ども	60人	60人	36人	24人	0人	0人	40人	20人	0人	0人	37人	20人	3人	0人	37.7人	21.3人	1.0人	0.0人
【選択必修】キャリア教育の過去と未来	57人	57人	35人	20人	2人	0人	36人	19人	2人	0人	33人	22人	2人	0人	34.7人	20.3人	2.0人	0.0人
【選択】生徒指導上の課題から捉える教育の本質	52人	52人	41人	11人	0人	0人	39人	13人	0人	0人	36人	14人	1人	0人	38.7人	12.7人	0.3人	0.0人
【選択】教育の情報リテラシー	52人	52人	31人	19人	1人	1人	29人	21人	1人	1人	32人	18人	1人	1人	30.7人	19.3人	1.0人	1.0人
【選択】社会科学「これからの社会科・地産科教育を考える」	36人	36人	24人	11人	1人	0人	23人	12人	1人	0人	24人	10人	2人	2人	23.7人	11.0人	1.3人	0.7人
【選択】国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」	33人	33人	27人	6人	0人	0人	27人	6人	0人	0人	22人	10人	1人	0人	25.3人	7.3人	0.3人	0.0人
【選択】英語科「Creating More Motivating Classroom Environment」	26人	26人	16人	9人	1人	0人	19人	6人	1人	0人	20人	6人	0人	0人	18.3人	7.0人	0.7人	0.0人
【選択】理科「怪しげな科学情報と科学思考」	37人	37人	23人	13人	1人	0人	23人	12人	1人	0人	23人	13人	1人	0人	23.0人	12.7人	1.0人	0.0人
【選択】数学科「これからの数学と数学教育」	24人	24人	10人	11人	3人	0人	13人	7人	4人	0人	13人	7人	3人	1人	12.0人	8.3人	3.3人	0.3人

3) 2018 年度実施に向けた講習の設計

第 1 回プラン委員会（2017 年 10 月実施）においては、2018 年度講習の基本設計を議論し、11 月の第 2 回プラン委員会で実施設計を決定し、以下のようなプランを 2017 年 12 月に文部科学省に申請した。

①必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 4 日 8/2 (木)	「マクロ・メゾ・ミクロから捉えた学校と子ども」 (午前) 最近の教育政策と学校経営の課題	高野 良一	60 名
	(午後) 社会性や道徳性の発達と支援	渡辺 弥生	

②選択必修領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 2 日 7/31 (火)	「教科横断的な視点に基づくカリキュラム・マネジメント」 (午前) 次期学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントの考 え方・進め方ー多文化共生を事例として	松尾 知明	60 名
	(午後) カリキュラム・マネジメントの観点による、教育課程全体を 通じたキャリア教育の推進	児美川 孝一郎	

③選択領域

日 程	内 容	担当教員	募集数
第 1 日 7/3 (月)	「教育の情報リテラシー」 (午前) 教育および社会データの情報検索と活用	田澤 実	60 名
	(午後) メディアと情報・学校図書館の活用	坂本 旬	
第 3 日 8/1 (水)	「生徒指導上の課題から捉える教育の本質」 (午前) 主体的・対話的な学びに求められる視点	寺崎 里水	60 名
	(午後) 特別なニーズ教育に求められる視点	遠藤 野ゆり	
第 5 日 8/3 (金)	社会科「これからの社会科・地歴科教育を考える」 (午前) 生徒が主役になる社会科・地歴科授業の創造	加藤 公明	30 名
	(午後) シティズンシップ教育としての社会科教育の課題と展望	和田 悠	
	国語科「文学教育（古典・近代）と国語教育」 (午前) 文学教育と言語教育、教材としての「小説」	中丸 宣明	30 名
	(午後) 古典文学の魅力を伝える	小秋元 段	
	英語科「コミュニケーション能力を高める英語指導：動機づけ・主体的参加・多文化理解の視点から」 (午前) Building Engagement into Language Activities to Increase Motivation	ウィリアム スナイダー	30 名
	(午後) 多文化理解のためのポライトネス指導	石原 紀子	
理科「怪しげな科学情報と科学思考」 (午前・午後) 怪しげな科学情報と科学思考	左巻 健男 長島 雅裕	30 名	

2017年度教職課程センターの報告

1. 法政大学教職課程センターの活動

法政大学の教職課程教育の体制が抱えていた困難を克服し、教員免許を取得し、教員採用試験に挑戦する学生への系統的な指導を実施する目的を持って、2012年4月より、教職課程センターが発足した。2017年度は6年目の活動となった。

センター発足時における課題は以下のようなものであった。

第一に、現在法政大学は3キャンパスで教職課程教育を展開しているが、多摩キャンパス、小金井キャンパスにおける教員養成が、市ヶ谷キャンパスと比べても、体制的に見て大きな弱さを抱えており、各キャンパスに教職課程センターを設置し、相談指導員を配置することで、改善していくこと。

第二に、全学の教員養成のための教職専門教育についてはキャリアデザイン学部が責任を持つシステムを取っているが、全学の教職課程教育について、統一的な方針の下に日常的な指導を展開していく仕組みが不十分であり、教職課程センターを中心にして、全学的な改善、充実を図っていくこと。

第三に、近年の教員採用においては、教員免許取得に至る教員養成の全過程に対する大学としての意識的、日常的な指導、加えて個別的な指導が不可欠になってきており、教育実習や介護等体験を含めて、日常的な相談指導体制を整えること。

第四に、教員採用試験に合格し教職に就くには、学生自身の意識的な努力、系統的な準備が不可欠であるが、教職課程センターの援助によって、学生の採用試験に向けての意識的な構えを作り、学習会を組織するなど、共同で支え合う仕組みを作り出すこと。

2017年度もセンター長に高野良一教授（キャリアデザイン学部）、センター運営委員に、児美川孝一郎教授（キャリアデザイン学部）、松尾知明教授（キャリアデザイン学部）、左巻健男教授（教職課程センター）、筒井美紀教授（キャリアデザイン学部）、遠藤野ゆり准教授（キャリアデザイン学部）、寺崎里水准教授（キャリアデザイン学部）、田澤実准教授（キャリアデザイン学部）、平塚眞樹教授（社会学部）、永木耕介教授（スポーツ健康学部）、林園子特任・任期付准教授（スポーツ健康学部）が任じられ、運営に当たった。

また日常的な教職課程を履修する学生への教職相談指導活動を担当する教職相談指導員体制が、2017年度は、市ヶ谷地区は週4日体制、多摩地区週3日体制、小金井地区週3日体制で展開された。合わせて各センターに事務体制が取られており、センター（相談室）の開室日は市ヶ谷地区週5日、多摩地区週5日、小金井地区週5日となっている。

今年度の相談指導員は以下の方々に務めていただいた。

- ・市ヶ谷地区：笠谷 一夫
- ・多摩地区：重田 博、本山 明、高橋 繁
- ・小金井地区：田神 仁

2. 教職課程センターの基本性格

教職課程センターは、教職課程委員会が協議承認する基本方針に沿って、法政大学における教職教育のセンターとしての職務を遂行する機関である。具体的には以下のような業務を担っている。

- ①本学における教職教育の基本方針に沿って、その具体的な内容を計画し、円滑な実施を行う。
- ②兼任講師を含む教職教育実施のための連絡調整の役割を担う。
- ③教育実習や介護等体験に資する行事やガイダンス等について実施内容を決定する。
- ④教職課程履修生が記録する「履修カルテ」を管理し、添削指導を担当する。
- ⑤教職課程に関する発行物（教職課程年報、教育実習の手引き等）の編集・発行を行う。
- ⑥教職を目指す学生への日常的な教職相談指導活動、系統的な援助（特別講座や採用試験対策講座などの開設）を行う。

- ⑦現職教員の研修への対応（免許更新制度への対応を含んで）をする。
- ⑧教職教育、学生の教員免許取得のための学習・研究に必要な書籍、資料などを蓄積し、学生の利用に供する（教職資料および教職課程実習室の管理、運営）。
- ⑨本学学生の教職への就職等を支援する教育関係同窓生等を含んだネットワークをつくる。
- ⑩本学の教職教育などに関する研究、調査をする。

3. 2017年度の教職課程センターの活動

1) 2017年度センター・相談室利用者数

(1) 市ヶ谷教職課程センター利用者数報告書

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計	
開室日数 (A)		20	23	22	21	16	13	22	18	16	17	12	200	
センタースタッフ対応人数 (B)		737	851	400	504	502	397	704	606	523	354	319	5,897	
(B) 内訳	①教職関連書籍の利用 (貸出・返却・閲覧)	107	162	84	61	106	77	153	149	105	45	33	1,082	
	②自主学習グループ予約受付 (勉強会・模擬授業等)	24	31	37	15						3	6	116	
	③センターでの自習	114	126	61	216	212	135	258	144	127	60	65	1,518	
	④個人相談指導の予約受付	33	12	19	12		7	3	10	18	11	16	141	
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付	61	25	32	17	23	19	27	3	23	27	37	328	
	⑥その他 (上記に当てはまらない窓口対応)	150	67	60	41	40	57	79	66	93	83	55	791	
	E-mail、TELの問合せ	79	123	67	123	121	70	172	157	120	75	79	1,186	
	①履修カルテの配布・回収・問合せ	154	256	24	7		28	2	17	15	13	1	517	
	②教職課程費の徴収・問合せ	11	46											57
	その他	4	3	16	12		4	10	26	22	37	27	161	
1日あたり平均対応件数 (B/A)		36.9	37.0	18.2	24.0	31.4	30.5	32.0	33.7	32.7	20.8	26.6	29.4	
相談指導日数 (C)		13	14	16	14	11	16	14	15	11	12	12	148	
教職指導人数総数 (D)		179	150	77	84	78	27	49	76	89	88	103	1,000	
(D) 内訳	①教職課程に関する学習相談	3	1	2			1	2	7	5	3	1	25	
	②教育実習・同事前指導に関する相談	1	10	1			1	2	1	3	2		21	
	③進路・キャリアに関する相談	1	2	1	2	1	3	7	7	1		3	28	
	④教採試験に関する相談 (教採情報提供/学習以外の事柄等)	1	2		1	1	4	8	5	5	3	1	31	
	⑤教採試験に関する相談 (面接/論文/筆記/模擬授業/実技等)	173	135	72	80	76	18	27	55	73	80	98	887	
	⑥その他 (ボランティア活動/学習グループづくり等)			1	1			3	1	2			8	
1日あたり平均相談指導人数 (D/C)		13.8	10.7	4.8	6.0	7.1	1.7	3.5	5.1	8.1	7.3	8.6	7.0	

(2) 教職課程センター多摩相談室利用者数

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開室日数 (A)		22	20	22	20	11	14	21	21	14	16	18	199
センタースタッフ対応人数 (B)		185	110	129	178	19	22	33	50	37	45	21	829
(B) 内訳	①教職関連書籍の利用 (貸出・返却・閲覧)	5	11	16	15	3	6	8	5	3	3	10	85
	②自主学习グループ予約受付 (勉強会・模擬授業等)	3			4				4	1		2	14
	③センターでの自習	9	11	10	13	2	3	8	3	8	4	2	73
	④個人相談指導の予約受付	7	1	5	3		2		1		1	2	22
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付	3	11	18	35				3	10	1		81
	⑥その他 (上記に当てはまらない窓口対応)	55	8	9	1	5	1	2	19	5	4	1	110
	E-mail、TELの問合せ	2	3	5	6			1	2	5	3	4	31
	①履修カルテの配布・回収・問合せ	94	62	57	66		3	9	5	3	29		328
	②教職課程費の徴収・問合せ	3	3	7	32		1	5	3				54
	その他	4		2	3	9	6		5	2			31
1日あたり平均対応件数 (B/A)		8.4	5.5	5.9	8.9	1.7	1.6	1.6	2.4	2.6	2.8	1.2	3.9
相談指導日数 (C)		13	10	14	12	11	11	12	12	8	10	12	125
教職指導人数総数 (D)		72	54	66	82	25	25	53	45	22	32	53	529
(D) 内訳	①教職課程に関する学習相談	8	5		1	2	4	2	2	1	4		29
	②教育実習・同事前指導に関する相談	3	2	3	1		1	8	4		1	2	25
	③進路・キャリアに関する相談	10	1	5	4	1	3	7	3	3	4		41
	④教採試験に関する相談 (教採情報提供/学習以外の事柄等)	8	3	2		1	2	4	3	1	2	2	28
	⑤教採試験に関する相談 (面接/論文/筆記/模擬授業/実技等)	8	3	6	7	3		1	2	2	1	1	34
	⑥その他 (ボランティア活動/学習グループづくり等)	35	40	50	69	18	15	31	31	15	20	48	372
1日あたり平均相談指導人数 (D/C)		5.5	5.4	4.7	6.8	2.3	2.3	4.4	3.8	2.8	3.2	4.4	4.1

(3) 教職課程センター小金井相談室利用者数

教職課程センター利用目的		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
開室日数 (A)		20	20	20	22	7	13	21	16	16	17	13	185
センタースタッフ対応人数 (B)		170	91	31	14	18	30	65	23	24	40	12	518
(B) 内訳	①教職関連書籍の利用 (貸出・返却・閲覧)	10	13	9	3					3	10	1	49
	②自主学習グループ予約受付 (勉強会・模擬授業等)												0
	③センターでの自習												0
	④個人相談指導の予約受付	10	18	6	6		3	5	9	14	10	4	85
	⑤講座・模試・見学会・シンポジウム等イベント予約受付	20		9	1		3	2	4	5	5	3	52
	⑥その他 (上記に当てはまらない窓口対応)	50	4	5	2	5	1	3	5	2	5	4	86
	E-mail、TELの問合せ					13		2			2		17
	①履修カルテの配布・回収・問合せ	77	56	2	2		20	51	5	2	7		222
	②教職課程費の徴収・問合せ	3						2			1		6
	その他						5						5
1日あたり平均対応件数 (B/A)		8.5	4.6	1.6	0.6	2.6	2.3	3.1	1.4	1.5	2.4	0.9	2.7
相談指導日数 (C)		12	14	12	18	7	8	14	11	10	11	8	125
教職指導人数総数 (D)		111	116	88	157	80	39	172	108	99	67	92	1,129
(D) 内訳	①教職課程に関する学習相談	6	3	1			2	27			3		42
	②教育実習・同事前指導に関する相談		3	5			2	19					29
	③進路・キャリアに関する相談	1	1				2	10	6	1	1		22
	④教採試験に関する相談 (教採情報提供/学習以外の事柄等)	1		3				2					6
	⑤教採試験に関する相談 (面接/論文/筆記/模擬授業/実技等)	99	109	78	157	80	32	112	102	98	63	92	1,022
	⑥その他 (ボランティア活動/学習グループづくり等)	4		1			1	2					8
1日あたり平均相談指導人数 (D/C)		9.3	8.3	7.3	8.7	11.4	4.9	12.3	9.8	9.9	6.1	11.5	9.0

2) 学生に対する教職相談指導活動

(1) 2017年度センター・相談室別教職相談指導実施件数

相談員・相談実施日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	合計
<市ヶ谷> 相談実施日：月～木曜日	176	150	77	84	78	27	49	76	89	88	103	1,000
<多摩> 相談実施日：火・水・金曜日	72	54	66	82	25	25	53	45	22	32	53	529
<小金井> 相談実施日： 月・水・土曜日 (4月～8月) / 月・火・水曜日 (9月～3月)	111	116	88	157	80	39	172	108	99	67	92	1,129

(2) 市ヶ谷教職課程センターの活動概況

◆教職課程センター相談活動（市ヶ谷） 週 4 日実施

1) 概況

本センターは、教職課程準備室を経て 2012 年度に発足し、丸 6 年を経過した。センターの日常業務は教職相談指導員 1 名と事務職員 3 名により運営されている。また、附属施設として主に教職を目指す学生が自由に利用できる「教職課程実習室」と教育関係及び教職に関する書籍を収納する「ライブラリー」がある。週 5 日間開室され、まさに教職を目指す学生のセンター的役割を担っている。（ただし、教職相談指導員による相談は週 4 日）

2) センターの利用内容

[1] 主な教職相談の内容

- ①進路相談（公立・私立校）
- ②教員採用試験対策（面接・論文・模擬授業対策等）
- ③模擬授業実習（教育実習事前指導及び教科指導法等の授業準備）
- ④学習指導案の作成

[2] ライブラリーで利用できる主な書籍類

- ①教育関係研究図書・雑誌
- ②学習指導要領及び教科書（中学校・高等学校全教科）
- ③教員採用試験関係雑誌
- ④教員採用試験問題集・参考書
- ⑤教職関係ビデオ・DVD
- ⑥教育関係新聞

[3] 各自治体及び私立校の教員採用試験や学習支援ボランティア等の情報提供

[4] 教職に関する学習スペース（主に教職課程実習室）

3) 主な企画事業

[1] 自治体ごとの教員採用説明会

各自治体からの申し出により、本年度は東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・川崎市・相模原市の担当者が来室し、教員採用試験の概要についての説明が行われた。

[2] 「合格者の体験を聞く会」

毎年、自治体や校種・教科などに則して、教員採用試験合格者の体験報告会を行っている。2017 年度は、公立・私立中学校・高等学校の国語・社会・英語によるプレゼンテーション及び校種、自治体、教科、私立、教職大学院に分かれての質問コーナーを設けて懇談会を行った。

[3] 学校見学会

最近の学校現場の教育事情を知るために、希望者を対象とする「学校見学会」を 5 回行った。見学先は、公立中学・公立中高一貫校、通信制サポート校、私立中高。見学会では、各教科の授業参観、当該校の校長による学校紹介、学生による質疑などを行った。

[4] 教員採用二次試験対策講座

各自治体の一次試験終了後、外部から面接官を招へいし、本番と同様の形式で「個人面接」を実施した。本年度は 24 名が参加した。

[5] 教員採用試験対策模擬試験

教職相談指導員の作成による公立校の教員採用試験を想定した「教職教養」「小論文」の試験を年間 2 回実施した。

[6] 自主学習グループによる教員採用試験対策のための勉強会

昨年度から本年度にかけて相談室に来室する学生が増加したことに伴い、3 年生を中心に教科ごとの「自主学習グループ」が発足した。国語・社会・英語ごとに定例会を開催し、教職相談指導員の支援による「論作文作成」「面接練習」や「模擬授業」などを行った。2018 年 2 月現在、25 名を超える学生が登録し、熱心な活動が展開されている。

4) 取り組みの成果と課題

[1] 教職を目指す学生の「学ぶ空間」としての教職課程センターの役割の明確化

教職課程センターが設立される前は、教職を目指す学生が集う場所がなく、それぞれ個別に取り組んでいたが、設置されてからの6年間において教職課程センターの「認知度」が飛躍的に高まり、利用者数も年々増加している。集う場所としての「教職課程実習室」はもとより、センター内にある「ライブラリー」は、収納している書籍数が増加したこともあり、「学習情報センター」的な役割を果たしている。特に、教育実習事前準備のための模擬授業を行う学生や教員採用試験受験者にとっては不可欠の場所になりつつあると言っても過言ではない。

[2] 組織的・計画的な教員採用試験対策が功を奏した合格者の増加

本年度教員採用試験合格を目指して「自主学習グループ」に登録した学生の約8割がそれぞれの目標を達成することができた（本年度は、特に私立校が増加した）。この要因として「自主学習グループ」による組織的な取り組みがあげられる。受験者が個別ではなく、こころざしを同じくする者同士の切磋琢磨や励まし合いの中で、計画的に共に学ぶ体験をしたのである。なお、本年度は、卒業生・大学院生の合格者の増加が目立った。

[3] 卒業生との連携を充実し、「教職を学ぶセンター」への取り組みの充実

東京都をはじめ現在、教員として活躍している卒業生も多いが、未だ大学との十分な連携は図られていない。教職を学んでいく上で今日の学校現場の状況を知ることは極めて重要である。卒業生の時代にはなかった教職課程センターの存在を知らせるとともに、卒業生の経験を伝えていただきながら、「これからの教職の在り方」などについて学べるセンターとしての役割を果たすための取り組みの充実を図ることが今後の課題である。

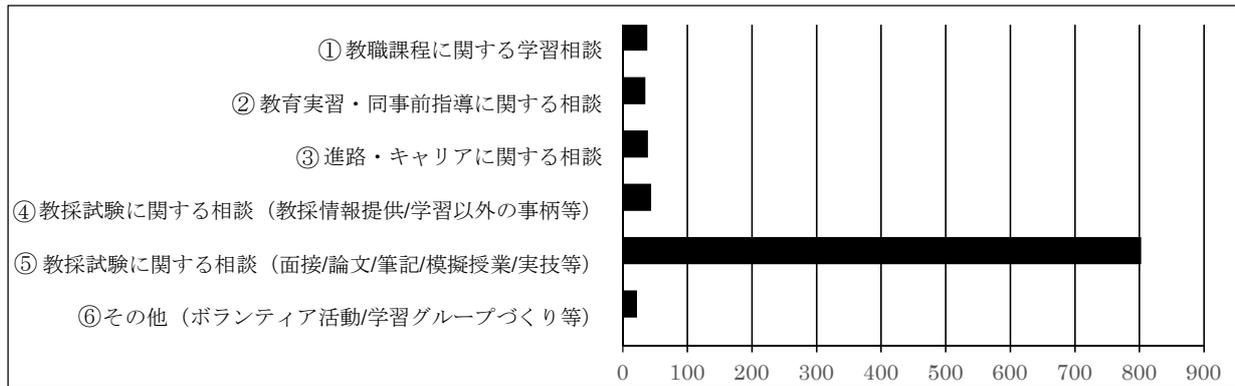
①学部別相談件数（2018年2月末現在）

○法学部	103人	○文学部	481人	○経済学部	9人
○社会学部	20人	○経営学部	60人	○国際文化学部	61人
○人間環境学部	18人	○キャリアデザイン学部	16人	○理工学部	10人
○グローバル教養学部	20人	○スポーツ健康学部	8人	○生命科学部	20人
○現代福祉学部	1人	○大学院	5人	○通信教育学部*	36人
○卒業生	45人				

計 913人

※本学卒業生で通信教育学部在籍者を含む

②相談指導の内容別の統計から（2018年2月末現在）



(3) 多摩相談室の活動概況

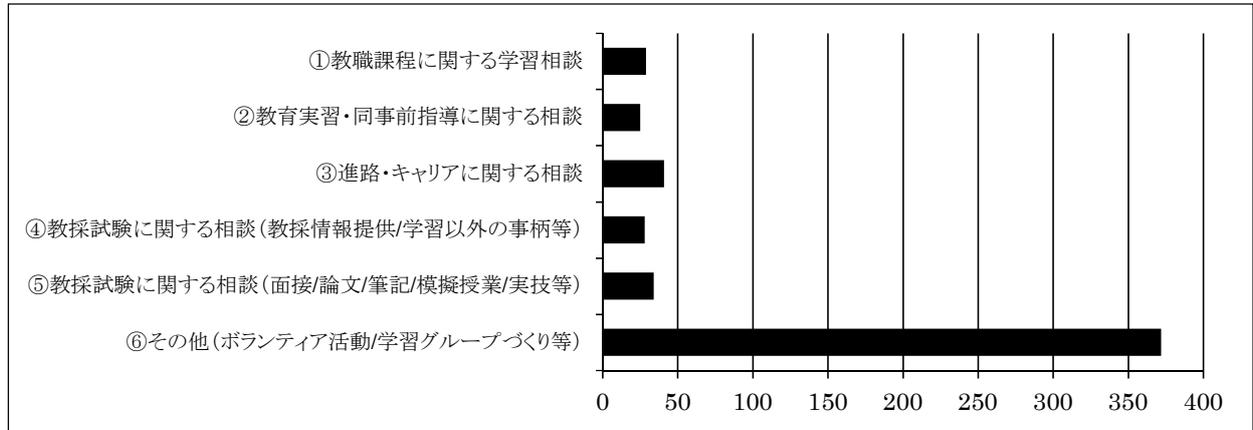
◆教職課程センター相談活動 週3日実施

本年度は、体育科、社会科（2名）の相談員が勤務し、活動を行った。日常的な相談業務に加え、2つの教科ごとの自主学習グループを継続した。採用試験対策や時事問題など、学生たちが互いに課題を持ち寄り、教職に関する理解を深める場をつくった。また、学校見学会に学生を引率し、授業や生徒の様子を見てきた。教員採用試験に向けた対策だけでなく、将来教職に就いてから役立つ知識や技能を身につけ、教育に対する自分の考えが持てるようになることを重視して指導活動を展開した。黒板や図書・DVDなどの教材資料コーナーも設置し、学生たちの利用増加になるよう努力している。また、「多摩だより」を27号まで発行し、学生への支援と広報につとめている。

①学部・性別相談件数（2018年2月現在）

○経済学部	85人	○社会学部	185人	○現代福祉学部	24人
○スポーツ健康学部	219人	○卒業生	4人	○院生	9人
				○科目等履修生	3人
					計 529人

②相談指導の内容別の統計から（2018年2月末現在）



※教採試験相談は、試験に関する相談（学習重点、面接・論述・二次の模擬授業対策など）。
進路相談は、受験自治体の選択・私立と公立の選択・併願、免許取得の相談など。

(4) 小金井相談室の活動概況

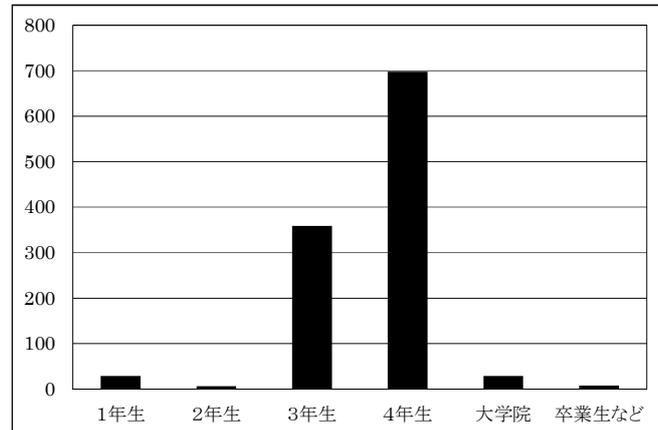
◆教職課程センター相談活動（小金井） 週3日実施

2017年度相談指導人数は2月末現在延1,129人で、昨年度の522人に対して倍増した。そのうち1,022人が教員採用選考に向けた論作文、面接等の指導を受けに来た者であり、学生の教員採用選考に対する意識の高さが表れている。特に、論文添削や各種講習、面接練習等への参加が多かった。これらに参加した学生の実人数は3年生24人、4年生18人、大学院生2人である。今年度は、相談指導員の交代により相談室業務の学生への周知が遅れたため、事実上の指導開始が4月24日の「合格論文書き方講習」からとなった。そのため、5月の連休中と教育実習中はメールによる添削を行ったものの、各学生の論文力を合格レベルまで引き上げるのに6月末までかかってしまった。その結果、7月の1次選考では20人中17人が合格することができたが、2次試験に向けた面接練習、模擬授業の開始が7月からとなり、個人面接指導は一人2回、集団討論指導と模擬面接は一人1回ずつしか実施できなかった。そのため、最終合格者が7名にとどまった。今年度の反省を踏まえ、2018年度受験生に対しては、11月15日から論文指導を開始し、2月19日から4月3日までに、「面接講習」、「個人面接練習」1人3回、「集団討論練習」1人2回、「模擬授業」1人1回実施することとした。その後、4月23日から5月29日の間に教育実習向け模擬授業、7月2日から27日の間に週3回（9コマ）ずつ個人面接指導、

① 学部・性別相談件数（2018年2月末現在）

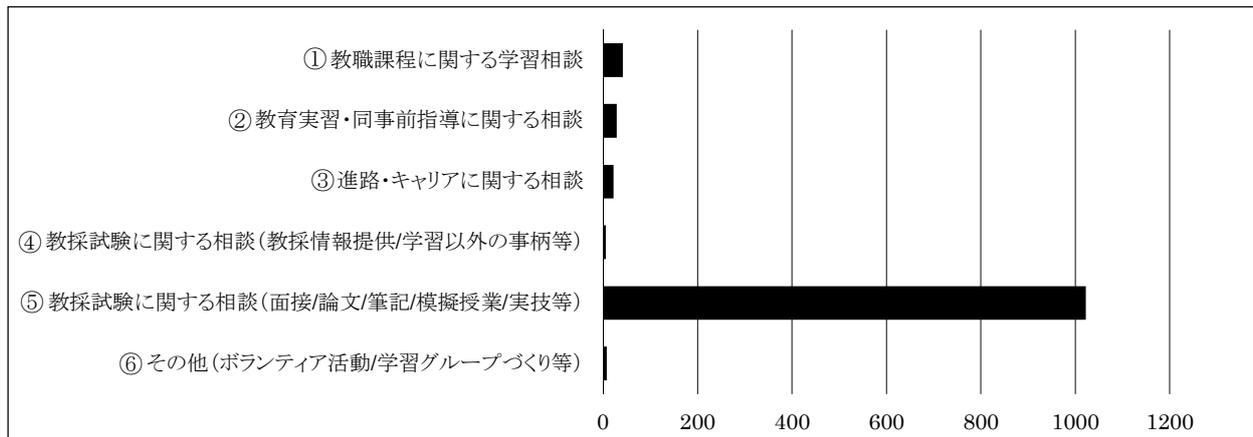
○理工学部	794人	○生命科学部	295人	○情報科学部	3人	○大学院生	29人
○卒業生	8人	○科目等履修生	0人				計 1,129人

② 学年別来室者数から（2018年2月末現在）



延1,129人の学生が相談指導を受けに来室した。4年生と大学院生が727人であり、教員採用選考における面接練習・論文添削指導等が多かった。4月以降9月の2次試験終了までの添削論文数は、延219枚であった。実人数が20人なので、一人平均36.4回来室し、論文を10枚以上添削してもらったことになる。一方、3年生等の2018年度教員採用選考受験予定者は11月15日の「合格論文書き方講習」から論文の添削指導を開始し、2月末までの添削論文数は98枚である。これは4年生等の6月中旬時点の枚数に匹敵する。来年度の受験者の意欲の高さの表れである。その後の講習にも3年生を中心に延375人が参加した。

③ 相談指導の内容別の統計から（2017年2月末現在）



昨年度からの開室方針で、教員採用選考に向けて意図的・計画的な学生支援を目指した。2017年度教員採用選考向けに「合格論文書き方」講習2回参加者計24人、「個人面接」指導14回計延46人、「集団討論」指導2回計12人、「模擬面接」2回計延24人を実施した。その後、2月19日から4月3日までに3年生を中心に、2018年度教員採用選考向けに「教育法規」講習8回参加者計延96人、「学習指導要領」講習8回延108人、「合格論文書き方」講習2回計27人、「面接講習」2回計16人、「個人面接」指導26回計延64人、「集団討論」指導6回計延38人、「模擬面接」7回計延26人を実施する予定である。以上から、前年度に対する量的拡大は実現できた。今後は最終合格に向けた質的充実がより一層求められている。

※ (2) の報告については笠谷一夫教職相談指導員、(3) の報告については重田博および本山明教職相談指導員、(4) の報告については田神仁教職相談指導員がそれぞれ担当した。

3) 教職課程センター各種イベント

(1) 法政大学教職課程センターシンポジウム

<多摩地区>

多摩でかたらう 2017

『アクティブラーニングで授業づくり～東京オリンピック・パラリンピックを授業化してみよう～』

日 時：2017年12月12日（火）17:30～19:30

場 所：法政大学多摩キャンパス 総合棟4F 第3会議室 AB

プログラム

- ・授業：本山明「オリンピック・パラリンピックの光と影」
- ・お話：羽仁カンタ氏「東京オリンピック・パラリンピックをSDGsのもつ価値の方へ」

*参加者数 約20名

(2) 教員採用試験二次対策（個人・集団面接）講座

市ヶ谷・多摩・小金井各キャンパスで教員採用試験二次対策講座を開催した。採用試験面接官経験者が講師となり、個人・集団面接（討論）を中心に実施した。

	実施日	延べ参加人数
市ヶ谷キャンパス	7月27日・7月28日	24人
多摩キャンパス	7月28日・7月31日	26人
小金井キャンパス	8月2日・8月3日	24人

市ヶ谷・多摩に関しては外部講師（面接官経験者）を講師に招いて実施した。小金井に関しては外部講師（都立高校長経験者2人）を講師として実施した。

(3) 教員採用試験合格者の体験を聞く会

市ヶ谷キャンパス 参加学生：19名	2017年11月11日（土）	14：50～16：35
多摩キャンパス 参加学生：15名	2017年12月5日（火）	15：30～16：45
小金井キャンパス 参加学生：49名	2017年12月9日（土）	14：30～16：00

(4) その他の活動

市ヶ谷キャンパス

①教員採用試験ガイダンス

主に1年生を対象とし、教員になるための心構えや教員採用試験についての説明をした。

- 第1回 2017年4月10日（月）実施 参加学生：12名
- 第2回 2017年4月11日（火）実施 参加学生：18名
- 第3回 2017年7月10日（月）実施 参加学生：5名
- 第4回 2017年7月13日（木）実施 参加学生：8名

②都内公立中高等学校・通信制サポート校・私立中高見学会

- 第1回 2017年10月17日（火）実施 参加学生：7名
- 第2回 2017年10月21日（土）実施 参加学生：8名
- 第3回 2017年11月6日（月）実施 参加学生：13名
- 第4回 2018年1月29日（月）実施 参加学生：3名
- 第5回 2018年2月8日（木）実施 参加学生：13名

③教員採用試験学内模試

教職教養・小論文の模試を行った。

- 第1回 2017年6月29日（木）実施 参加学生：27名
- 第2回 2018年3月28日（水）・29日（木）実施予定

④「教職教養・論作文」対策講座

- 第1回 2017年4月12日（水）実施 参加学生：16名
- 第2回 2017年4月13日（木）実施 参加学生：10名
- 第3回 2017年4月17日（月）実施 参加学生：12名
- 第4回 2017年4月25日（火）実施 参加学生：13名
- 第5回 2017年4月26日（水）実施 参加学生：4名
- 第6回 2017年4月27日（木）実施 参加学生：10名
- 第7回 2017年5月3日（水）実施 参加学生：3名
- 第8回 2017年5月4日（木）実施 参加学生：5名
- 第9回 2017年5月8日（月）実施 参加学生：7名
- 第10回 2017年6月19日（月）実施 参加学生：7名
- 第11回 2017年6月20日（火）実施 参加学生：5名
- 第12回 2017年7月5日（水）実施 参加学生：5名
- 第13回 2017年7月6日（木）実施 参加学生：4名
- 第14回 2017年10月10日（火）実施 参加学生：5名
- 第15回 2017年10月19日（木）実施 参加学生：5名
- 第16回 2017年11月14日（火）実施 参加学生：4名
- 第17回 2017年11月16日（木）実施 参加学生：10名
- 第18回 2017年11月28日（火）実施 参加学生：5名
- 第19回 2017年12月12日（火）実施 参加学生：6名

第20回 2017年12月21日(木)実施 参加学生：10名
 第21回 2018年1月9日(火)実施 参加学生：4名
 第22回 2018年1月15日(月)実施 参加学生：5名
 第23回 2018年1月16日(火)実施 参加学生：6名
 第24回 2018年1月18日(木)実施 参加学生：4名
 第25回 2018年1月30日(火)実施 参加学生：6名
 第26回 2018年2月13日(火)実施 参加学生：6名
 第27回 2018年2月22日(木)実施 参加学生：10名
 第28回 2018年2月23日(金)実施 参加学生：7名
 第29回 2018年2月27日(火)実施 参加学生：1名
 2018年3月5日(月)・7日(水)・12日(月)・13日(火) 実施予定

「面接練習(個人・集団)」対策講座

第1回 2018年1月24日(水)実施 参加学生：12名
 第2回 2018年1月25日(木)実施 参加学生：7名
 第3回 2018年2月20日(火)実施 参加学生：5名
 第4回 2018年2月21日(水)実施 参加学生：5名
 2018年3月8日(木)・9日(金) 実施予定

「模擬授業・場面指導・集団討論・自己分析・ボイストレーニング」対策講座

第1回 2017年7月17日(月)実施 参加学生：2名
 第2回 2017年8月3日(木)実施 参加学生：9名
 第3回 2017年8月4日(金)実施 参加学生：3名
 第4回 2017年8月8日(火)実施 参加学生：3名
 第5回 2017年8月21日(月)実施 参加学生：1名
 第6回 2017年8月22日(火)実施 参加学生：3名
 第7回 2017年8月24日(木)実施 参加学生：2名
 第8回 2017年11月29日(水)実施 参加学生：12名
 第9回 2017年12月7日(木)実施 参加学生：12名
 第10回 2017年12月14日(木)実施 参加学生：13名
 第11回 2017年12月19日(火)実施 参加学生：10名
 第12回 2018年1月17日(水)実施 参加学生：5名
 第13回 2018年1月30日(火)実施 参加学生：6名
 第14回 2018年1月31日(水)実施 参加学生：13名
 第15回 2018年2月1日(木)実施 参加学生：2名
 第16回 2018年2月2日(金)実施 参加学生：8名
 第17回 2018年2月2日(金)実施 参加学生：7名
 第18回 2018年2月15日(木)実施 参加学生：8名
 第19回 2018年2月19日(月)実施 参加学生：8名
 第20回 2018年2月26日(月)実施 参加学生：6名
 第21回 2018年2月28日(水)実施 参加学生：7名
 2018年3月1日(木)・2日(金)・26日(月)・27日(火) 実施予定

多摩キャンパス

学校授業見学会

第1回 2017年11月2日(木)実施 参加学生：4名
 (社会科・都内葛西第3中学校)
 第2回 2017年12月5日(火)実施 参加学生：4名(院生)
 (スポーツ健康学部・埼玉県立大宮北支援学校、西分校〈県立大宮武蔵野高等学校内分校〉)

小金井キャンパス

○2017年教員採用選考対策「合格論文の書き方」講習

- 第1回 2017年4月24日(月)実施 参加学生：6名
第2回 2017年4月26日(水)実施 参加学生：18名 計24名

○2017年教員採用選考対策「個人面接指導」

- 第1回 2017年7月3日(月)実施 参加学生：1名
第2回 2017年7月5日(水)実施 参加学生：2名
第3回 2017年7月10日(月)実施 参加学生：3名
第4回 2017年7月11日(火)実施 参加学生：5名
第5回 2017年7月11日(火)実施 参加学生：5名
第6回 2017年7月15日(土)実施 参加学生：3名
第7回 2017年7月17日(月)実施 参加学生：1名
第8回 2017年7月19日(水)実施 参加学生：1名
第9回 2017年7月22日(土)実施 参加学生：5名
第10回 2017年7月24日(月)実施 参加学生：3名
第11回 2017年7月25日(火)実施 参加学生：7名
第12回 2017年7月26日(水)実施 参加学生：2名
第13回 2017年7月29日(土)実施 参加学生：7名
第14回 2017年7月17日(月)実施 参加学生：1名 計23名(延46名)

○2017年教員採用選考対策「集団討論指導」

- 第1回 2017年7月17日(月)実施 参加学生：6名
第2回 2017年7月17日(月)実施 参加学生：6名 計12名

○2017年教員採用選考対策「模擬面接」

- 第1回 2017年8月2日(水)実施 参加学生：11名
第2回 2017年8月3日(木)実施 参加学生：13名

○2018年教員採用選考対策「教育法規講習」

- 第1回 2017年10月2日(月)実施 参加学生：6名
第2回 2017年10月4日(水)実施 参加学生：18名
第3回 2017年10月9日(月)実施 参加学生：6名
第4回 2017年10月11日(水)実施 参加学生：18名
第5回 2017年10月16日(月)実施 参加学生：6名
第6回 2017年10月18日(水)実施 参加学生：18名
第7回 2017年10月23日(月)実施 参加学生：6名
第8回 2017年10月25日(水)実施 参加学生：18名 計24名(延96名)

○2018年教員採用選考対策「合格論文書き方」講習

- 第1回 2017年11月6日(月)実施 参加学生：9名
第2回 2017年11月15日(水)実施 参加学生：18名 計27名

○2018年教員採用選考対策「学習指導要領」講習

- 第1回 2017年11月27日(月)実施 参加学生：9名
第2回 2017年11月29日(水)実施 参加学生：18名
第3回 2017年11月27日(月)実施 参加学生：9名
第4回 2017年11月29日(水)実施 参加学生：18名
第5回 2017年11月27日(月)実施 参加学生：9名
第6回 2017年11月29日(水)実施 参加学生：18名
第7回 2017年11月27日(月)実施 参加学生：9名
第8回 2017年11月29日(水)実施 参加学生：18名 計27名(延108名)

○2018年教員採用選考対策「面接講習」練習

第1回 2018年2月19日(月)実施 参加学生：12名

第2回 2018年2月20日(火)実施 参加学生：4名

○2018年教員採用選考対策「個人面接」練習

第1回～第3回 2018年2月21日(水)実施 参加学生：6名

第4回～第6回 2018年2月26日(月)実施 参加学生：7名

第7回～第9回 2018年2月27日(火)実施 参加学生：7名

第10回～第11回 2018年2月28日(水)実施 参加学生：4名

第12回～第13回 2018年3月5日(月)実施 参加学生：6名

第14回～第16回 2018年3月6日(火)実施 参加学生：9名

第17回～第18回 2018年3月7日(水)実施 参加学生：6名

第19回 2018年3月12日(月)実施 参加学生：2名

第20回～21回 2018年3月13日(火)実施 参加学生：8名

第22回 2018年3月14日(水)実施 参加学生：5名 計21名(延60名)

○2018年教員採用選考対策「集団討論」練習

第1回～第3回 2018年3月19日(月)実施 参加学生：19名

第4回～第6回 2018年3月20日(火)実施 参加学生：16名 計18名(延35名)

○2018年教員採用選考対策「模擬授業」指導

第1回～第3回 2018年3月26日(月)実施 参加学生：15名

第4回 2018年3月28日(水)実施 参加学生：4名

第5回～第6回 2018年4月2日(月)実施 参加学生：6名

第7回 2018年4月3日(火)実施 参加学生：3名 計14名(延28名)

4. 2018年度に向けて

教職課程センターの活動を通して、法政大学の教職教育のいっそうの充実を図っていききたい。

第一に、各学年400人を超える教職課程履修生に対する日常的、系統的な指導と援助の体制をさらに充実していききたい。それは、教職課程を履修し、教員採用試験の合格を目指す学生にとって、大きな支えともなり、また意識的・計画的に、かつ友人や教職相談指導員の支援を得て日々の取り組みを進めていくうえでも大きな励ましとなるだろう。特に、学生がグループやサークルを作り、日常的に学びあい、励ましあう関係を組織していくことが重要であり、この点での援助を強めていききたい。

第二に、法政大学の従来の教職課程履修の支援が、市ヶ谷地区に比して多摩地区・小金井地区でどうしても弱くなっていた状況があるが、教職課程センター・相談室の三キャンパス設置は、各キャンパスにおいて同じようなサービスを受けることができる方向への第一歩である。さらなる充実を実現していききたい。

第三に、本学の教員採用試験合格者は、この6年間採用数の増加等で若干の波はあるが上昇傾向にある。教職課程センターによる就職支援活動の成果などによって、教職関係就職者数は、系統的な援助体制を組むことでさらに増加の可能性があるため、より着実に取り組みを展開していききたい。

第四に、法政大学の教員養成の向上のためには、法政大学が歴史的に蓄積してきた教育界における様々なネットワークを最大限活用することが非常に重要となっている。教員養成への様々な援助の人材の把握や、就職に関係した情報の把握など、センターが中心となって、新たな支援ネットワークの形成を進めていききたい。

第五に、現在の教職教育にとっては、教育現場との連携を深めることが不可欠になっている。学校現場や施設などからの教育関係のボランティア募集なども多数始まっており、それらと教職を目指す学生との橋渡しをするなど、各種ボランティア参加やインターンシップのセンターとしても機能させていききたい。

5. 2018年度の教職課程センター・相談室のサービス

1) 教職課程センター 市ヶ谷 利用内容

●教職関連の書籍／DVD／ビデオの貸出・閲覧

※一部貸出不可の書籍などもあります。

- 中学・高校 教科書／指導書
- 教員採用試験雑誌「教員養成セミナー」「教職課程」
- 教員採用試験問題集／参考書
- 教育関係新聞「教育新聞」「日本教育新聞」
- 教育関係書籍／ビデオ／DVD など

●学習支援ボランティア（学生ボランティア）情報の提供

●勉強会・学習スペースとしての利用

※教職課程実習室の利用に関しては予約が必要です。

●教職相談指導の実施

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月～木曜日 10：00～17：00

申込み方法：kkc@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または教職課程センターに直接来室

<相談内容>

- ・就職相談・情報（公立・私立）
- ・教員採用試験対策（面接・論文・模擬授業対策）
- ・模擬授業実習（教育実習事前指導）
- ・教育実習指導案作成 など

●履修カルテの提出

2) 教職課程センター 多摩相談室 利用内容

●教職関連資料・書籍の閲覧

- 教員採用試験参考書・問題集
- 教育関連書籍
- 教員採用試験関連雑誌・新聞
- 中学・高校 教科書／指導書 など

●教職関連の相談指導

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月・水・木曜日 10：00～18：00

申込み方法：kyoshokutama1@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または多摩相談室に直接来室

<相談内容>

- ・教員免許取得、教職関連の進路相談
- ・教育実習準備に関する相談
- ・教員採用試験向け学習・準備に関する相談
- ・教員採用情報（公立・私立）
- ・学習支援ボランティア（学校・教育）ボランティア関連の相談
- ・スタディグループ（自主的学習活動）づくりに関する相談 など

●履修カルテの提出

3) 教職課程センター 小金井相談室 利用内容

●教職関連の書籍利用

- 教員採用試験関連月刊誌（教員養成セミナー・教職課程）
- 中学・高校 教科書／指導書（数学・理科等）
- 教員採用試験問題集（自治体別過去問等）
- 教育関連書籍（教育法規、学習指導要領、数学、理科等）
- 教育新聞
- 介護等体験、教育実習関連書籍
- 研究団体学会誌（日本数学教育学会誌、東京都高等学校数学教育研究会誌）

●教職相談指導の実施

※事前申込みを優先いたします。

実施日：月・火・金曜日 9：30～17：30

申込み方法：kkck@ml.hosei.ac.jp 宛にメール、または小金井相談室に直接来室

<相談内容>

- ・教員採用試験対策（「合格論文書き方指導」、「論作文添削指導」、「面接講習」、「個人面接指導」、「集団討論指導」、「模擬授業指導」、「教育法規講習」、「学習指導要領講習」）
- ・教員採用情報（公立・私立）
- ・教育実習指導案作成指導
- ・教育ボランティア紹介（自治体、中学校、高校等） など

●履修カルテの提出

教職課程センター・相談室の利用および教職相談指導の申込みについては、原則として法政大学教職課程を履修している在学生の方（大学院生・通信教育部生含む）および卒業生の方のみの利用とさせていただきます。一般の方のご利用はできませんので、ご了承ください。

※利用内容については、2018年4月現在の予定となります。

4) 教職課程センター・相談室開室日

教職課程センター・相談室	電話番号	開室日時
教職課程センター 〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 富士見坂校舎 3階	03-3264-5562	月～金 10：00～18：00
教職課程センター 多摩相談室 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 総合棟 1階	042-783-2087	月～金（土・日・祝除く） 10：00～18：00
教職課程センター 小金井相談室 〒184-8584 東京都小金井市梶野町 3-7-2 西館 1階	042-387-6359	月～金（土除く） 9：30～17：30 (11：30～12：30 除く)

※夏季・冬季休業などで閉室の場合は事前にお知らせします。

※2018年度の開室日時の予定となります。最新の開室日時につきましてはホームページ等で確認してください。

(第一部文責・教職課程担当 高野良一。なお、法政大学の教職課程履修学生に関するデータ等は全て、学務部学務事務課の教職担当者及び教職課程センターの事務担当者によって処理・提供頂いたものである。)